

① 新学習指導要領の全面実施に対応

- ・「主体的・対話的で深い学び」を目指して主体的に授業をつくる＝教師の授業力 up
育成すべき資質・能力，学びを深める見方・考え方，子どもの具体の姿で分析
- ・単元配列表を活用したカリキュラム・マネジメントの推進
教科等横断的な視点，PDCA サイクルと評価，教職員の意識改革
- ・外国語教育…英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動を重視
低学年：英語活動（年間1年10H，2年15H）…木曜6h（30分）で触れる
中学年：外国語活動（年間35H）…「聞く」・「話す」を中心に慣れ親しむ
高学年：外国語科（年間70H）…「読む」・「書く」を加えて身に付ける
- ・総合的な学習の時間における探究的な学習の充実…熟成過程の重視
※下学年にむけて学年ごとに学習成果の発表を（参観可の方向で）
- ・プログラミング的思考の育成…年度当初，学年ごとに位置づけ配列表に記入
→各学年で関連単元の「モデル単元等」にチャレンジする（5年算数・6年理科は必須）
- ・きめ細かな学習評価のため，児童の発言を聞き取り，授業ノート等を見取る

② 「自ら学ぶ力」の育成 ～全教科において，主体的・対話的で深い学び～

- ・「課題（めあて）」…学習活動の表示ではない。1時間のねらいに基づいて設定
- ・「振り返り」…学びを自分事として捉え，生活や次時へ活かす。
「誰の発言（発表）や活動」により「どんな学び」があったのかを記述。
- ・コミュニケーション重視：目的をもった話し合い活動，その場で答えられる思考判断
- ・授業の開始・終了時刻を厳守（45分で勝負）。→子どもの活動をイメージした教材研究
- ・全学年で家庭での自学自習を習慣化…学習予定表を活用，出し方の工夫。

③ 「自ら律する力」の育成 ～全校あげて『凡事徹底』～

- ・「粘り強く取り組む力」，「思いやりの心」を重点項目として取り組む。
- ・困りを抱える子への支援…不要なものを排除し，整理整頓。ロッカーは廊下側。
- ・子どもを認め，褒め，達成感をもたせる指導と配慮。→明日の登校への期待感
- ・問題行動の未然防止（温かな学級経営と励まし合う学習集団づくり）
- ・徹底的に丁寧かつ迅速な対応→「報告・連絡・相談」を大切に。
- ・共通理解→共通行動により，「チーム梅北」で同じ方向性をもって対応（強力な協力）

④ 働き方改革の推進…会議・研修の効率化。教材研究や子どもと向き合う時間を大切に。

3年生以上の専科制導入と学年内交換授業による負担軽減。
※仕事が楽になるのではない。自己研鑽がより一層必要になる。

I 「生きる力」を育む14の取組の重点

<新しい学習指導要領で育成を目指す資質・能力>

- ・何を理解しているか，何ができるか： 知識及び技能
- ・理解していること・できることをどう使うか： 思考力，判断力，表現力等
- ・どのように社会・世界と関わり，よりよい人生を送るか： 学びに向かう力，人間性等

1. [確かな学力]の育成

(1) 社会とのつながり・接続を実感できる授業への改善

① 学びの約束やルールをどの子も確実に身に付け，意欲的に学ぶ学習集団を育成

② SDGsの理念を踏まえつつ個に応じた授業を目指し，指導体制（専科，協力，少人数等）を工夫

③教育課程京都市スタンダードのもと、「目標に準拠した評価」・「指導と評価の一体化」の充実

※学習評価は、指導改善や学習改善につながるものにしていく（毎時間、記録に残す必要はない）

- ・評価したことを**指導に生かす**場面…毎時間子どもの見取りを行うが、評価につながるものではない。
→「指導に生かすための評価」とするが、記録しても構わない
- ・評価したことを**記録に残す**場面…実現状況を把握できる場面を精選して行い、評価へつなげる。
→「記録に残す評価場面例」と例示

※単元テストの実施時間は配当時間数に含まれる（外国語科以外）

④研究会テスト、プレジョイントプログラム、ジョイントプログラム、全国学力学習状況調査など、各種調査およびテストに向けて準備するとともに日頃の指導に生かす。

(2) 基礎的・基本的な知識・技能の習得と言語活動の充実

①**基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させる**

- ・**帯時間の取組を徹底（おはようタイムの読書と読解、算数タイムの基礎学力定着）**
- ・放課後や長期休業を利用した課外学習を計画的に実施。（個人懇談時、学力向上の取組）
- ・家庭学習の手引等の利用（児童の実態を考慮した内容、学校・学年の共通理解）

→**全学年で自主学習ノート**

→1週間の学習予定に基づいた家庭学習計画を記載できる欄を設ける。

②実感を持った理解となるように、調べ学習、観察・実験、レポート作成等の活動を取り入れる。

③ICT機器を効果的に活用し、基礎的読解力や数学的思考力、情報活用能力を確実に育成する。

- ・**プログラミング教育…論理的・合理的な思考、情報や情報技術を手段として活用できるスキル、知識や情報を整理する力の育成 ※スタンダードに⑩と示す**

④国語科において、言葉の果たす役割を的確に理解し、論理的に思考し表現する語彙能力や互いの立場や考えを尊重して伝え合う能力を培う。

⑤**[学習課題（めあて）]→主体的・対話的で深い学び→[大事（まとめ）]・[振り返り]の徹底**

※「学習課題（めあて）」と「大事（まとめ）」を対応させる

※子どもの主体性を引き出し、持続する授業 →「振り返り」が次の主体性へ

※どの時間にどのような対話を入れるか工夫する

「教師と児童、児童と児童、児童が自分自身と、児童と作品の著者」などの対話。

⑥複数の情報の違いを見つけて対処し、情報の質や信ぴょう性を評価できる能力の育成

⑦読書習慣の確立…休み時間の開館、学級文庫の整備、読書週間等で指導の充実

- ・学校図書館（＝「学習・情報センター」「読書センター」）を各教科の指導計画に位置付ける
- ・学習情報源として新聞を計画的に活用

(3) 問題解決的な学習と探究活動の充実

①**主体的・対話的で深い学びを実現させるために、自ら課題を見つけ、調べ、解決する学習過程を全教科において実現できるようにする。複数解がある問いの工夫。**

- ・対話を通して考えを広げる
- ・知識を相互に関連付ける
- ・情報を精査して考えを形成する
- ・問題を見出して解決策を考える
- ・思いや考えを想像する

活動を通して意図的に育てる
→過程を重視

②**単元構想図をもとに総合的な学習の時間の充実**

自然体験、社会福祉体験、職場体験活動、ボランティア活動、ものづくり、地域のゲストティーチャーによる出前授業といった学習活動を積極的に取り入れ、探求的な学習になるようにする。

※ポスター発表、プレゼンソフトによる発表、パネルディスカッション等を学習過程の途中または終盤に組み入れ、できるだけ1つ下の学年に向けて発信し、学年便りで参観を呼びかける。

③各教科との関連を大切にした指導の充実（カリキュラム マネジメントの視点）

(4) グローバル化時代に対応する実践的英語力の育成

中学校では基本的に外国語の時間は英語で授業を行うことになるので、進学後、子ども達が戸惑わないように、小学校段階で英語活動・外国語活動・外国語科をきちんと取り組むことが大変重要になる。

- ① 1年生で年間10時間、2年生で年間15時間を指導（京都市独自の取組）
（**イングリッシュシャワー**、英語の絵本を読み聞かせ、英語であいさつ、自己紹介、単語のゲーム）
※3年生～6年生は、外国語活動部からの年間指導計画に則る。
- ②外国語教育において、**ALT との連携**と年間計画に基づいた計画的な指導実践
- ③研修（校内、校外、支部拠点校公開授業）の主体的な参加
- ④「**目的**」・「**場面**」・「**状況**」を設定して**英語を使って互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動**
→**子どもがその場で考えてすぐに答えられる力の育成（実践的英語力の育成）**

(5) LD等支援の必要な子どもの学力向上

- ①LD等通級指導教室（大空教室）の指導の推進と充実
- ②「**個別の指導計画**」の活用で、行動面だけでなく、学力面への支援を充実させる。
 - ・前年度の引継ぎをもとに、5月家庭訪問で「**願い**」や「**支援の具体**」を確認
 - ・7月の個人懇談会で修正→保護者との確認→「**様式①**」・「**様式②**」・「**協議内容**」の書類に「**サイン**」
- ③言葉だけでなく、視覚支援をできるだけ取り入れるようにする。
- ④新1年生の就学支援シートは、保護者の了解のもと、写しを取り、家庭訪問で返却。
- ⑤**教室経営をできるだけ全校で統一する。…黒板まわりの掲示物、ロッカーの配置、当番表**

2. [豊かな心]の育成

(6) 道徳教育の充実…道徳性を養い、道徳的实践力育成のために

- ①お互いの生き方や価値観の違いを認め合いつつ、共通して守るべきものはしっかりと身に付けていく「**考え、議論する道徳**」を目指した「**しなやかな道徳教育**」の実践を推進する。
- ② いじめ防止、安全確保に留意しつつ、公共心や公德心、生命を尊重する心、感謝する心等の道徳性を育てる活動を重視する。
- ③ 内容項目A[希望と勇気、努力と強い意思]・B[親切、思いやり]を重点とする。
 - ・6月休日参観、9月か1月参観それぞれで、1時間の道徳の授業の公開
 - ・梅北だより（学校だより）とHPにおいて、道徳教育について発信する。
- ④「**特別の教科 道徳**」の授業研修を深める。
 - ・「特別の教科 道徳」教科書とノート、ワークシートの活用
 - ・年度末の通知票における評価の在り方について、校内で共通理解する。

(7) 伝統文化や芸術を通じ、豊かな感性・情操を育む教育の充実

- ①茶道や華道をはじめ、優れた知恵と技を受け継ぐことの大切さを理解する。
- ②優れた芸術に触れ、楽しさや美しさを味わう活動を通して、芸術に主体的にかかわっていく態度を育む。
- ③乳幼児との触れ合いや動物・植物に親しみ、育てることなど命の温もりや尊さを感じさせる。

(8) 規範意識の充実…子どもの社会的自立を目指した指導、組織的な生徒指導体制の確立

- ① **学校生活における規範意識の育成⇒約束やルール・規律などを身につける指導の徹底**
「**あいさつ、そうじ、スリッパ、廊下は右側を歩く**」を徹底させるための取組（**学級、学年、分掌**）
- ② 問題行動に対しては『**社会で許されない行為は、学校においても許されない**』という毅然とした姿勢で指導し、家庭と連携して「**いじめ・暴力**」を許さない集団づくりの推進
- ③ **薬物乱用防止教室**・「**非行防止教室**」・「**情報モラル指導**」の実施で、正しい判断力の育成
 - ・「**情報モラル指導**」…4年生「**ゲーム依存**」・「**ケータイ教室**」、5年生「**SNSトラブル**」、6年生「**インターネットへの投稿の危険性**」（学習プログラムあり）を参観授業で取り組む。

(9) 多様性を理解する姿勢の涵養

人権教育の推進…障害についての理解と認識を深め、互いを尊重し共に成長し合う児童の育成

- ①人権学習の年間指導計画による系統的な指導の推進
- ②校内研修と保護者啓発の充実
- ③中学と連携した人権教育の確立

- ・同和教育—人権教育の重要な柱としての同和教育の推進と発達段階に応じた系統的な指導
- ・外国人教育—自他の国の文化や伝統に触れ、互いに尊重する態度の育成
- ・男女平等教育—男女を問わず等しく個性ある人間として尊重し合う資質や能力を養う
- ・総合育成支援教育—支援の必要な児童への理解と認識を深め、共に成長し合う基礎を培う
- ・国際理解教育—服装・食事・更衣等の生活面などで子どもの文化理解と受容性の幅を広げる

(10) 支え合い高め合う集団作りの推進

①自分の力を学級全体のために役立てようとする学級風土創り

- ② 子ども、保護者との信頼関係構築 → 日常からの信頼関係作り
- ③ 不登校の未然防止と対策 → 教育相談の充実と計画的な取組、学級での子の存在価値
- ④ 問題行動やいじめの未然防止と迅速な対応・指導
- ⑤ SC, SSWとの連携, クラスマネジメントシートの活用, ピースメソッド・ピアサポートの充実

3. [健やかな体]の育成

(11) 運動やスポーツの実践と体力の向上

- ①生涯にわたって運動やスポーツを豊かに実践できるように体育科の授業を実践
- ②部活動への積極的な参加による体力向上 (部活動ガイドラインを遵守した活動)
- ③体を動かすことで情緒面や知的な発達を促し、集団的活動を通して、コミュニケーション能力や論理的思考力を育む

(12) 保健教育の充実

- ① 望ましい生活習慣 (食事, 運動, 睡眠等) の確立に向け, 年3回の生活調べの結果から改善指導
- ② 「性に関する指導」では発達段階や目的・内容を十分に配慮して行う
- ③ 飲酒・喫煙・薬物の有害性や危険性を知り, 薬物乱用防止教室等で指導

(13) 安全教育の充実

- ①学校安全の日の点検
- ②交通安全教室 (1年), 自転車教室 (4年)
- ③安全管理状況の把握と学校危機管理体制の確立, 緊急地震速報受信システムを活用した訓練の実施
- ④野外活動の際の現地下見を十分に行い, 安心・安全な活動に努める。

(14) 食に関する指導の推進

- ① 食に関する指導の全体計画に基づく指導
- ② 給食カレンダーの活用 (データで送信→学習系に保存)
- ③ 和給食のデジタル教材の活用
- ④ 保護者と連携しつつ, アレルギー・アナフィラキシーのついて正しい知識に基づいた適切な対応

II 学校経営の重点

1. [教職員の意識改革と資質・能力の向上]…責任と自覚をもち、地域・保護者からの信頼を高める

※学校教育目標の達成に向けて、教科横断的な視点で効果的な取組を進める。(カリマネ)

ア 学校評価活動(教職員の自己評価, 児童評価, 外部評価)を取り入れた教育活動の推進

イ 自己研修の充実(教員は自己目標申告書に, 講座受講など授業力向上の取組を記載)

・今, 苦労しないと, 後で恥をかく

ウ **積極的な協力姿勢が安心できる職場につながる…体制整備とともに臨機応変**

・自分も梅津北小の一員であることの自覚をもち, 全児童の成長にかかわる

エ 地域, 保護者と共に子どもを育てる

・保護者の思いを知る。地域の願いを知る。保護者と共感する

2. [特色ある学校づくりの推進]…梅北ならではの教育を目指す

ア 地域学習の更なる推進→「梅北っ子」の意図的, 計画的な推進と地域・保護者との連携

・地域の方のゲストティーチャーによる出前授業と職場体験(5年)

イ 環境教育の推進→梅津北小学校環境宣言(KES)の推進(委員会活動)

こどもエコライフチャレンジ(4年)

有栖川についての学習や清掃活動(全学年)

ウ 情操教育の推進→学習発表会は, 音楽・総合の学習成果を発表する場に

エ 部活動の推進…文化部, 体育部での活動(教員は全員参加)

オ 児童の自主性重視(係活動, 委員会活動, クラブ活動, 児童会, 校内ボランティア, 授業)

カ 小中一貫教育の推進→梅津中学校, 梅津小学校との連携

3. [開かれた学校づくりの推進]…地域・保護者と共に子どもを育てる

ア 学校運営協議会を活かした『地域ぐるみの学校づくり』

イ 放課後まなび教室の地域スタッフの充実

ウ 授業参観日・自由参観日の活用(参観, アンケート)

エ 保護者・地域への発信(学校だより, H.P, 学年便り, 学級通信等)

4. [教育環境の整備]…意欲高まる環境, 安全な環境, 心地よい環境を目指す ※安全面での管理の徹底

ア 人的環境 → 各教員の授業力向上と意識改革…児童の資質・能力の育成を

総合育成支援員や学生ボランティアの活用

児童と関わる時間の確保(会議の精選, 資料の事前配布)

イ 物的環境 → 学習掲示板の内容を充実…テーマとねらいを明記

読書環境の整備…積極的な活用を促す

学校園の整備…責任感をもって

特別教室の整備…次の人が使いやすいように

【参考】作品の割り当て

・人権啓発ポスター…6年

・社会を明るくする運動(作文・習字)…6年

・敬老ポスター…4年

・花とうろう…3年

・よい歯の図画…2年

・学校安全ボランティア感謝の手紙…4年(社会科の学習との関連)